

令和3年度 A I ・データサイエンス教育プログラムに関する自己点検・評価について

令和3年度から開講した「A I ・データサイエンス教育プログラム」に関連する授業科目等について、以下のとおり令和3年度の点検・評価を全学教養教育運営センター AI ・データサイエンス教育ワーキンググループで行った。

1. プログラムの実施概要

数理・データサイエンス・AI 教育の全学的な展開を行い、データを活用し社会の課題を発見、解決できる人材を育成することを目的に、「A I ・データサイエンス教育プログラム」として令和3年度から開設している。

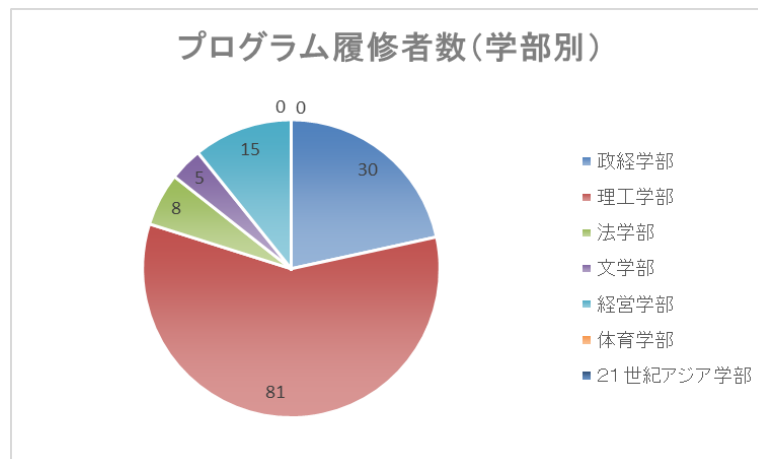
2. 令和3年度の状況

①プログラムの履修状況

開始初年度もあり、履修者は全学生の1%程度となっている。

【全学生数】12,353人 【履修者数】139人 【プログラム履修者率】1.1%

学部別は以下のとおり。



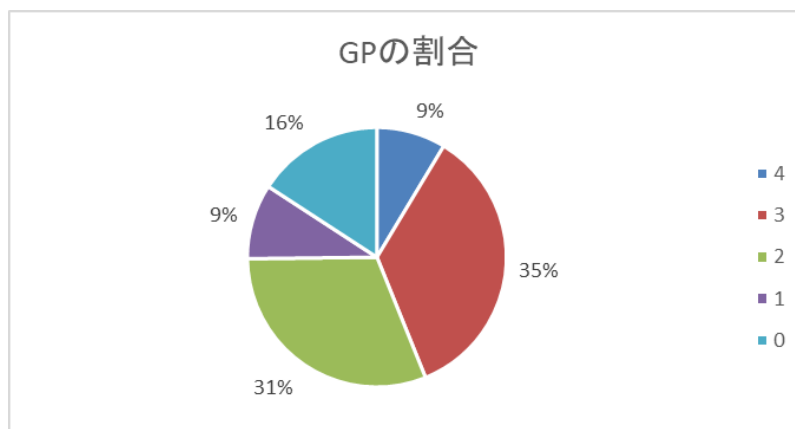
②プログラム修了者数

基幹科目である「A I とサイエンス」と、「統計学(基礎統計)」(理工学部以外の全学部)または「統計学」(理工学部)の単位修得することで、本プログラムの修了となるが、令和3年度のプログラム修了者は4人となっている。

学部	修了者数
政経学部	3
体育学部	0
理工学部	0
法学部	0
文学部	0
21世紀アジア学部	0
経営学部	1

③科目の成績評価

基幹科目である「A Iとサイエンス」履修者の成績修得状況について、G P（グレードポイント）別に見ると以下のとおりとなっている。



④学生による授業評価アンケート

基幹科目である「A Iとサイエンス」の授業評価アンケートについて、結果は以下のとおりとなっている。

No	設問	平均値
1	この授業の履修に際してシラバスを役立てた。	3.90
2	意欲をもってこの授業に参加した。	4.19
3	この授業について十分に理解できた。	3.96
4	この授業を受講して満足している。	3.88
5	この授業内容は、興味深く、知的好奇心を刺激するものだった。	3.98
6	教員の話し方は、聞き取りやすかった。	3.94
7	授業の構成・内容は、わかりやすく、適切だった。	4.00
8	授業の進度は、適切だった。	4.00
9	授業で使用した資料(レジュメ・パソコン教材・ビデオ教材など)は、授業の理解に役立った。	4.15
10	この授業において、知識などが身に付いた。また、外国語においては、外国語の能力を身に付けるための学習が十分に行われた。	3.92

※アンケート回答数:52

※各評価の点数は最大5点

3. 令和3年度の自己点検・評価

(1) プログラムの履修・修得状況

本プログラムは令和3年度より開設し、令和3年度の1年生科目として本プログラムの基幹科目として位置付けしている「A Iとサイエンス」を開講した結果、139人の履修者がおり、単位取得は117人であった。また、プログラムの修了には「統計学（基礎統計）」（理工学部以外の全学部）または「統計学」（理工学部のみ）の修得も必要だが、履修者の多い理工学部は、「統計学」が2年生科目のため本プログラムを修了する学生は、今年度は4人と少なかった。

次年度以降は、より履修が増えるように学生への周知方法に工夫をする必要がある、さらに、履修者が少ない学部の履修率を増やすために、授業コンテンツや周知内容にも工夫し、十分に全体へ周知する必要がある。

(2) 学修成果

基幹科目「A Iとサイエンス」の単位修得状況を見ると、半数近くの学生は5段階評価のうち評価4以上に相当する「優」を取得し、学生の理解度も高かったと読み取れる。また、授業評価アンケートの結果をみても、「この授業について十分理解できた」に対して、5点満点で3.96と比較的高いことから、全体としても理解度は高かったと評価できる。

一方で、単位を修得出来なかった学生が16%いるため、その要因および今後の対策について検討していく必要がある。

(3) 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度や後輩等他の学生への推奨度

授業評価アンケートにおいて、学生の理解度及び満足度について、5点満点で以下の結果となった。

「この授業について十分に理解できた。」…3.96

「この授業を受講して満足している。」…3.88

「この授業内容は、興味深く、知的好奇心を刺激するものだった。」…3.98

概ね高い数値となったことは評価できる。

また、「授業で使用した資料（レジュメ・パソコン教材・ビデオ教材など）は、授業の理解に役立った。」という設問に対しては、4.15とかなり高い評価を受け、教材に対する満足度は高い。

今後は、さらに満足度を向上させるために、授業内容の工夫等の必要がある。

なお、本教育プログラムの他者への推奨度に関する質問をしていないため、具体的な評価はできないが、授業評価アンケート結果による理解度や満足度と合わせて考えると、他の学生へ推奨度は高いことが考えられる。

(4) 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

令和3年度からスタートしたため、履修率は低いですが、令和4年度からは現行プログラムをさらに体系的に学修できるように「副専攻」化し、修了証を発行することで、履修することのメリットなども伝えながら履修者数、履修率向上に努めていく。また、副専攻化に伴い、基幹科目である「A Iとサイエンス」の開講コマ数も2倍に増やし、履修希望者の受け入れ態勢を整えていく。

数理・A I・データサイエンス教育をより一層全学的に取り組めるよう令和4年度以降にセンターを立ち上げ、教育プログラムの充実を図ることを予定している。

4. 内部質保証委員会からの意見（外部評価）

概ね適正に行われていると判断する。今年度から開設したこともあり、履修状況は低調であるが、学生への周知徹底やガイダンスの実施などを工夫し、今後は、履修者数を増やすことが望まれる。

以上